Opera リセウ大劇場《ナブッコ》

スカラ座、英国ロイヤル・オペラとの共同制作であるこの新演出は、2013年にロンドン、ミラノでのプレミエを経て、今年10月にやっとバルセロナで観ることができるようになった。所見した10月8日は「第2キャスト」の日だったが、アーティスト・ディレクターのクリスティーナ・シェッペルマン女史が「名目上第1、第2と呼ばれているが、両キャストとも素晴らしい」と語るように、題名役のルカ・サルシは将来が楽しみなナブッコだった。アビガイッレを歌ったタチアーナ・メルニチェンコも、初めは声量に頼り過ぎているように思われたが、物語が進むにつれ説得力を増していった。しかし、ザッカリアのエンリコ・イオリだけは完全にレヴェルに達していなかった。ダニエル・オーレンの指揮はレガートに欠け、歌手たちをまとめきれていない印象を受けた。ダニエレ・アバドの演出はモダンで美しいが、歌手たちの動きが少なく、歌うことのみに集中しているような印象を与える。そのような理由から初めは、一世代前の現実味のないオペラ公演に思えたが、終盤は、「下手な小細工をしないでも、歌だけでドラマを納得させられる数少ない歌劇場」としてリセウの株を上げた《ナブッコ》になっていた。

（中 東生）